



# 雲南からみた中緬国境

畢世鴻

## ●はじめに

中国にとって、ミャンマーは中国との間に国境問題を円満に解決した最初の隣国である。中緬両国は、二一六〇キロの国境線を共有しており、現在中緬国境では合計一カ所の出入国ゲートがあり、それ以外、自然的に発生した国境通路は七〇数カ所にも及んでいる。

中国側の出入国ゲートのなかでも、保税区分並みの「境内関外」という特別な管理方式が実施されたことで、雲南省の瑞麗出入国ゲートは中国で最も開放された道路型出入国ゲートのひとつになった。これと同時に、瑞麗に隣接するムセもミャンマーにおいて規模が最も大きく、政策面で最も優遇された道路型出入国ゲートになっている。瑞麗とムセ周辺の中緬国境地帯は、現在、ひとつの国境経済圏を形成しつつある。

本稿では、中緬貿易関係の変化を考察しながら、中緬両国を結ぶ大動脈である瑞麗・ムセ国境経済圏の全体図を明らかにしたい。

## ●中緬貿易関係

ミャンマー軍事政権は、欧米諸国から経済制裁を受けるなど国際社会から孤立した状況にある。そのため、中国を含む近隣諸国との経済関係を発展させることは、ミャンマー経済の死活に関わるといっても過言ではない。一方、中国は海外進出とりわけインド洋への進出に力を入れている。このことから、ミャンマーは、中国の理想的経済協力パートナーともいえる。

## ●ミャンマーの輸出入総額に占める対中貿易の割合

八八年以来、ミャンマー政府は、民間貿易の自由化、国境貿易の合法化など開放的経済政策を推進した。その後、欧米諸国からの経済制裁が強化されたこともあり、中国との経済関係を深めるようになり、中緬貿易額も大きく増大した。中国の輸出入総額に占める対ミャンマー貿易額の割合は決して高いとはいえないが、ミャンマーの輸出入総額に占める対中貿易額の割合は大きい。八九年には、中緬貿易額は、ミャンマー

輸出入総額の三三・〇%を占めた。その後、若干上下に変動するが、〇七年には二〇・八%にとどまっている。IMFの統計によれば、〇七年現在、中国はミャンマーにとってタイにつぐ二番目の貿易パートナーとなっており、輸出相手国として第三位、輸入相手国としては第一位である。しかし、中緬貿易は、香港とシンガポールなどを中継して行われることも少なくないため、これらの数字を入れると中国はミャンマーにとって最大の貿易パートナーになるといえる。

中緬貿易関係では、中国側の主要輸出品目は、機械設備、電気機器、鉄鋼製品、日用雑貨、紡績製品、家電製品、自動車・オートバイなど多岐にわたる。ミャンマーは国内の工業生産に必要な生産財・資本財を中国からの輸入に依存しているといっても過言ではない。一方、ミャンマーからの輸入商品は木材、鉱産物、農産品、水産物、宝石などの一次産品が大半である。

## ●中緬貿易額に占める国境貿易の割合

ミャンマー政府は、八八年出入国ゲート

表 2006年中緬出入国ゲートの統計

出入国ゲート名 (中国側・ミャンマー側)	出入国者 (延べ人数)		自動車出入国数 (延べ台数)		輸出入額 (100万米ドル)		貨物輸送量 (トン)	
	出国	入国	出国	入国	輸出	輸入	輸出	輸入
瑞麗・ムセ	2,768,916	2,789,705	452,198	450,185	373.19	26.75	395,239	81,663
畹町・チューコック	208,890	216,308	30,521	31,282	27.14	3.50	31,775	26,358
猴橋・カンバイティ	71,356	74,300	20,689	17,544	10.12	21.18	27,715	518,058
清水河・チンシュエハー	197,334	178,712	40,036	38,778	9.38	5.44	20,069	20,713
片馬・トオーゴ	95,190	84,210	32,941	23,268	0.40	3.82	394	107,045
盈江・ライザー	289,932	330,738	58,481	61,463	51.08	57.03	47,676	476,905
章鳳・ルウエージュ	391,241	179,750	38,018	17,507	32.87	2.95	8,928	27,826
南傘・コーカン	213,724	232,618	22,276	21,250	8.22	2.28	44,846	91,273
孟連・パンカム	366,496	338,466	47,071	49,480	23.13	61.54	98,604	167,593
打洛・マインラー	124,851	126,006	32,262	29,485	29.73	7.74	49,987	71,263
滄源・パンワイン	72,996	77,507	18,533	19,354	3.34	9.11	11,775	57,671

(出所) 雲南省商務庁の関連統計資料。

を通過する国境貿易を正式に認め、中緬国境貿易協定を締結し、八九年から中国との間で正規の国境貿易が始められた。中国も国境貿易における農・林・漁業産品、副産物、地方特産物、鉱産物等一六〇余りの品目に対する輸入税免除または半額徴収、柔軟な管理という国の政策を活用することで、ミャンマーとの国境貿易を積極的に進めて来た。その結果、中緬国境貿易は急速に活発化し、中国製品が雲南省を通じて大量にミャンマーに流入し始め、両国の国境地域の経済成長を効果的に牽引している。中緬国境貿易の主な形式は国境小額貿易、国境住民による互市貿易、国境地域対外経済技術協力などであった。

○六年の中緬国境貿易は五億六二五〇万米ドルであったが、○七年にはそれが七億二三〇万米ドルに増え、前年同期比二四・九%増となっている。とりわけ○七年には、国境貿易は中国の対ミャンマー輸出の二八・三%、輸入の六〇・七%、さらにミャンマー輸入総額の九・三%、ミャンマー輸出総額の四・七%をそれぞれ占めた。国境貿易の興隆は、ミャンマーに対する経済制裁とも無関係ではない。欧米諸国から厳しい制裁を科され、銀行間で米ドル決済にも困難を生ずる現状下、人民元とチャットで決済できる国境貿易は、ミャンマーの対外貿易で重要な地位を占めており、ミャンマー国内の需要を満たすための重要なルートとなる。

## ●トトと車両の移動

国境を接する雲南省とミャンマーの経済活動が活発に行われてからというもの、出入国ゲートを通過する出入国者が増え、越境する車両と輸出入貨物量も安定的に増加している。

### 人の出入国状況

九一年、中国政府による特別許可が出されたことで、瑞麗からミャンマーへ行く国境観光が緩和された。これまで単なる国境住民の往来に過ぎなかった国境での出入国の目的が、貿易・投資、公務、観光旅行にまで拡大している。○六年の出入国者は延べ五五六万人で、そのうち出国は延べ二七七万人で、入国は延べ二七九万人であった。そのほかの出入国ゲートと比較すると、瑞麗出入国ゲートでの出入国者数は圧倒的に多い。今や瑞麗出入国ゲートは、雲南省最大の国境貿易と観光のための出入国ゲートに成長している。

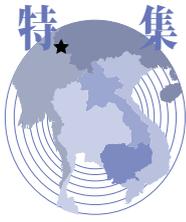
現在、中緬陸路越境においては、主には国境通行証が使われている。その利用者は主には国境住民である。パスポートに比べてビザを申請せずに隣国に入国でき、コストが安い。また、国境通行証は、隣国の国境地域しか使用できないが、商用を理由に、隣国の内地にも使用が認められている。そのため、雲南省とミャンマーの出入国ゲートを通過するビジネスマンは、ほとんど国境通行証を使用していた。他方、「中緬国

境管理協定」に基づき、有効なパスポートとビザをもつ第三国人は、瑞麗・ムセ、畹町・チューコック、打洛・マインラーの出入国ゲートを通過して、中緬国境を出入りできるとされている。しかし、実際にはそれがまだ実現できておらず、ミャンマーでは三カ月前に国防省の許可が必要とされている。

### 車両などの通行状況

これまでの出入国貨物もそれまでの少量の農産物と農業副産物のやりとりから、製造業や様々な生活資材へと変化している。例えば、○六年の瑞麗出入国ゲートにおける貨物輸送量は四七万六九〇二トン、自動車出入国数は延べ九〇万二三八三台、輸出入額は三億九九四万米ドルであった。また、○六年の瑞麗出入国ゲートにおける輸出入額は、同年度の雲南省の対ミャンマー輸出入額の五七・八%、中国の対ミャンマー輸出入総額の二七・四%をも占めている。

出入国ゲートごとの輸出入額については、畹町、章鳳、盈江、南傘、孟連、猴橋などに比べれば、瑞麗の輸出入額が圧倒的に多いといえる。その理由としては、瑞麗・ムセ出入国ゲートが、その他の地域にリンケージできる地理的な優位性、両国の中央政府から直接管轄されている利便性を有することが挙げられる。そして、諸少数民族武装グループの財源を断つため、その支配下にあるコーカン、パンカム、マインラーなどの出入国ゲートを開放させたくない



ミャンマー政府の思惑もあるようである。

## ● 瑞麗・ムセ出入国ゲートと姐告 国境貿易区

### 通関制度と通関施設の進捗状況

「シングル・ウインドー式」通関は、大メコン圏の人的往来と貿易の円滑化を促進するための重要な措置である。通関効率を高めることを目的に、関連国の出入国ゲート管理部門は、輸出入貨物に対する「一回の申告、一回の検査、一回のサービス、一回の通関」を行おうとしている。しかし、瑞麗・ムセ出入国ゲートでは、「シングル・ウインドー式」通関はまだ導入されていない。そのため、国境での積み替えが必要とされ、トラックの直接相互乗り入れが多くない。姐告<sup>チエカオ</sup>国境貿易区では、貨物の積み替え場が設置されている。中国側のトラックはここに入って、ミャンマー側のトラックと貨物を積み替えた後、そのまま引き返す。冷蔵庫などの貯蔵施設があるが、貨物ヤード、クレーンなどの施設はまだ設置されていない。貨物の積み替えと積み卸しの大部分も人手に頼っているために作業効率が悪く、利用者に多大な不便をもたらしている。

また、中国の車両がミャンマーの「ムセ一〇五マイル」の検問所（ミャンマー北部のラシヨールから一〇五マイルに相当する地点）まで輸出入貨物を直接積み卸しできるようにになっている。しかし、ムセ出入国ゲートからムセ一〇五マイル検問所までの一五キロにわたる道路整備が遅れ、かつミャン

マー領内で走行する車両と貨物が中国の輸送保険からカバーされていないなどの理由で、中国側のトラックが実際にムセ一〇五マイル検問所まで貨物を輸送するケースは少ない。今後、越境交通協定（CBTA）の締結により、「シングル・ウインドー式」通関が瑞麗・ムセ出入国ゲート両方にも採用され、以上のような問題が解決されると思われる。

### 姐告・ムセ国境貿易区の存在

姐告は中国雲南省瑞麗市に位置するが、瑞麗江という川で瑞麗市内と分かれ、飛び地のようになっている。中国政府は二〇〇〇年、瑞麗市の姐告周辺で、保税区分みの優遇政策を提供し、貿易、加工、倉庫貯蔵、観光などを一体化させた「姐告国境貿易区」を設立し、全国に先駆けて「境内関外」管理モデルを実施した。そこで、国境線（第一出入国ゲート）と税関管理境界線（第二出入国ゲート）が分かれ、第一出入国ゲートと第二出入国ゲートの間にあ

る飛び地は、姐告国境貿易区となる。本来国境線で設置するはずの税関と検査・検疫施設を内地（第二国境）撤退させ、姐告周辺の中国領土を税関の管理範囲以外の特別地域としている。ミャンマーのムセから姐告に入る車両、貨物、物品は中国税関の管理を受けず、税関申告と関税、輸入関連税の徴収が免除され、姐告から輸送された貨物には国の輸入商品関連の管理規定と徴税政策が適用される。また、瑞麗市から税関

の検問所を通過し、姐告に入った貨物と物品は、輸出とみなされる。

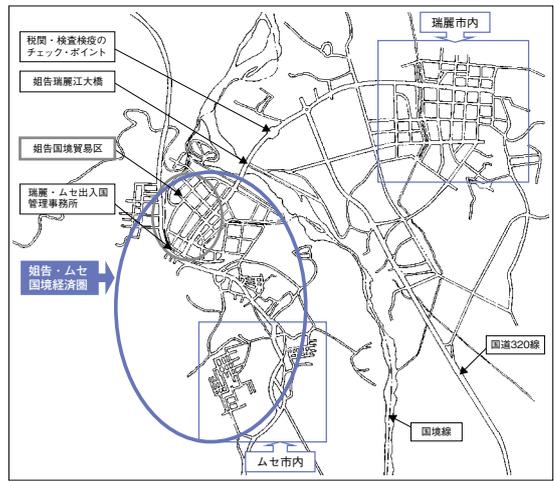
これに合わせて、ミャンマー政府は二〇〇四年、姐告国境貿易区の「境内関外」政策に倣って、ムセからムセ一〇五マイル検問所までの三〇〇平方キロにわたる広大な地域を自由貿易区に指定した。ミャンマー国内の物資がムセ一〇五マイルの検問所を越えてムセに入る場合は輸出とみなされるが、ムセに入っても一〇五マイル検問所を越えない外国物資については輸入品とみなさないことになっている。また、貨物の通関スピードを速めるために、一カ所でミャンマー側の様々な輸出入手続きを済ませることができるシングル・ウインドー・サービスを提供している。さらに、ミャンマー政府は二〇〇六年、姐告国境貿易区に隣接するムセ市を経済特区として認定し、貿易振興をはかった。

## ● 越境に伴う社会的諸問題

### （一）カジノによる影響

雲南省に隣接するミャンマー北部の大半は、少数民族武装勢力が直接支配する地域である。九〇年代初期から、麻薬ビジネスに依存してきた少数民族武装勢力は、「代替栽培」などの国際開発協力プログラムに参加し、麻薬ビジネスからの脱却をはかろうしてきた。これにより、収益率の高いカジノは、良い代替的な「生活の糧」となった。そこで、雲南省に隣接するミャンマーのライザー、ルウエージュ、ムセ、コー

図 瑞麗・ムセ出入国ゲート周辺の地図



(出所) google earthの地球衛星写真などに基づき加筆作成。

カン、パンカム、マインラーなどの国境の町ではカジノが続々と建設された。○五年からは、ギャングルによる社会的悪影響を懸念する中国政府の圧力で、大部分のカジノが営業停止に追い込まれるが、ムセ市周辺では、密かにカジノを引き続き経営しているケースは少なくない。

### (2) ヒューマン・トラフィック

貧困や、国内および国家間の経済格差は、地域社会のなかに人身売買という現象を生み出した主な原因である。しかし、近年のメコン地域諸国の経済成長が示すところでは、貧困が緩和されても、人身売買によって性的搾取の対象となる女性や子供の数は必ずしも減っていない。中国雲南省からミャンマー経由でタイに売られる事例が比較的に多い。一方、中国に嫁として売られたミャンマー人女性も年々増加している。国家間または地域間の経済格差を解消しない限り、ヒューマン・トラフィックを根本的に解決することはきわめて困難である。

### (3) エイズ感染問題

雲南省では、現在エイズの拡大が問題と

なっている。ミャンマーとの国境貿易で発展を続ける瑞麗では、HIV感染者への対策に追われている。政府関係機関の調査によると、瑞麗におけるHIV感染率はすでに三%まで上昇しており、エイズで死亡する人が後を絶たない。急速に感染者が増える傾向にある中国のエイズは、ミャンマーを含むメコン地域諸国と雲南省を拠点とした麻薬密売ルートと重なる形で感染を広げている可能性が高いという指摘がある。

### (4) 不法就労

中国では、経済発展が続いているばかりでなく、労働力も不足し始めている。不法就労のため、ミャンマー人が続々と瑞麗市に入っており、すでに瑞麗市で社会問題となりつつある。中国国内の需要を満たすように、非合法ではあるがミャンマーから労働力が瑞麗へ流入している。しかも、その数は猛烈な勢いで増え続けている。一方、ミャンマーでのビジネス・チャンスをめざし、ミャンマーに入る中国籍の不法就労者も増えている。

### ●おわりに

国境貿易区の設立以来、姐告は、それまでの簡単な物資中継拠点から東南アジア、南アジアの物流拠点への転換、国境貿易区から完全な自由貿易区への転換を実現しつつある。姐告国境貿易区はすでに東南アジアと南アジアの国際市場開拓のための橋渡

し的存在になっているが、こうした姐告国境貿易区の試みは、中国が国境地域に加工貿易区を建設して国境貿易を進展させるうえで参考にできる管理モデルだといえよう。「境内関外」政策の実施により、姐告国境貿易区は中緬貿易の中継点である。瑞麗出入国ゲートは、中緬貿易最大の陸路出入国ゲートであると同時に、中緬両国の物流拠点でもある。

一方、姐告国境貿易区の全面開放と急速な発展がミャンマーに大きな模倣効果をもたらしている。ムセは今やミャンマー最大の陸路出入国ゲートとなり、ムセ自由貿易区はミャンマーにおける最大規模かつ政策的に最も優遇された対外貿易区となっている。現在、ムセの年間輸出入額はミャンマーにおける陸地輸出入貿易総額の五〇%、ミャンマー国境貿易総額の七五%を占めている。これにより、瑞麗とムセの経済発展は、中緬国境地域経済の急速な発展を牽引し、国境経済圏の形成を促進している。現状からみれば、瑞麗・ムセ国境経済圏の形成過程では、ミャンマー国内政策の頻繁な変動、ミャンマー側の貿易赤字の増大、越境に伴う社会問題など、依然として多く課題が残されている。しかし、中緬両国のパートナーシップが変わらない限り、瑞麗・ムセ国境経済圏の設立はより速いスピードで推進されていくであろう。

(ひつ) せこう／雲南大学・東南アジア研究所・GMS研究センター・アジア経済研究所客員研究員